資料　２

**令和６年度第１回　「幼保小架け橋プログラム」検討会議においてご議論いただきたい論点**

項目１

今回、会議資料としてご提示させていただきます、「大東市版架け橋プログラム（素案）」は、５歳児から小学校１年生までの２４か月間の子どもの育ちのカリキュラムを記すとともに、幼保小の連携の取り組みを各園・学校ごとにご記入いただくことを想定した案として作成しております。こちらの素案の構成・内容につきまして、ご意見をお聞かせください。

項目２

「架け橋プログラム」につきましては、紙面の完成をもって完了とする取り組みではなく、２４か月間の子どもの育ちを視覚化することにより、幼保小において就学前後の教育・保育に取り組む大人同士の相互交流の取り組みを進めることが重要であると考えております。この考え方につきまして、ご意見をお願いいたします。

項目３

「架け橋プログラム」の検討にあたりまして、検討部会においては委員の皆様の意見交換による、プログラム作成を目指しているところですが、一方では、幼保小の現場で働く職員・教員の皆さんに対する、「架け橋プログラム」の周知の取り組みが必要であるものと考えております。

取り組みとしては例えば、「架け橋プログラム」の制度理解に向けた研修会の実施や、幼保小各施設における意見交換等が考えられますが、「架け橋プログラム」に係る現場の理解と意思統一に向けた取り組みの必要性について、ご意見をお願いします。

項目４

　国が作成した、『幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き』におきましては、「幼保小架け橋プログラム」が、子どもに関わる大人が立場の違いを越えて連携・協働し、架け橋期にふさわしい主体的・対話的で深い学びの実現を図り、全ての子どもの学びや生活を基盤を育めるようにすることを目指すもの、と定義し、教育内容の可視化によって、地域や施設の創意工夫を活かした取り組みが広がり深まることを期待するとしております。幼保小の連携・協働に向けた相互交流の取り組みとして、具体的にはどのような活動を期待しておられますか、ご意見をお願いします。